

<福岡県の環境について>

【調査の目的】

福岡県の環境のマスタープランである「福岡県環境総合ビジョン（第三次福岡県環境総合基本計画）」（※1）では、県民の皆さんと一緒に目指す10年後の姿を「豊かな環境が支える県民幸福度日本一の福岡県～環境と調和し成長する社会を未来へ～」と設定し、進捗管理のために、主要な環境基準の達成率等の18の指標を設定しています。

これらの指標に加えて、環境に関する認識や評価を把握するため、県政モニターの皆さんの御意見をお聴きし、今後の施策の参考とさせていただきます。

【活用状況】

- ・ 県の環境施策のマスタープランである環境総合ビジョンの進捗管理の一環として、環境へのニーズや満足度等を把握し、環境施策へ活用します。
- ・ また、環境総合ビジョンの進捗状況の点検を行うため、アンケートの結果を含めた進捗状況を、福岡県環境対策協議会に報告します。

（環境部 環境政策課）

※1 福岡県環境総合ビジョンとは

福岡県の環境行政の基本的な方向性を示すとともに、豊かで安全・安心な環境を将来世代に引き継いでいくため、県民、事業者、行政など、すべての主体が環境に関し考え行動する際の指針となるものです。

詳しくは下記を御覧ください。

<http://www.pref.fukuoka.lg.jp/contents/env-vision2013.html>

<1> 毎年6月は環境について考える環境月間であり、県でも街頭キャンペーンなどを行っています。6月が環境月間であることを知っていますか。

(N=328 選択は1つのみ)

知らない	77.1%	(253名)
知っている	22.9%	(75名)

無回答 0.0% (0名)

<2> 福岡県のマスコットキャラクターのエコトン（※2）を知っていますか。

(N=328 選択は1つのみ)

知らない	55.5%	(182名)
知っている	28.0%	(92名)
名前等は知らないが、見たことがある	16.5%	(54名)

無回答 0.0% (0名)

※2 エコトンとは

平成21年、全国432点の応募の中から、県民の皆さんの人気投票により、福岡県地球温暖化対策マスコットキャラクターに決定しました。

平成25年2月には、福岡県広報部長に任命され、県のマスコットキャラクターとなっています。



〈3〉 あなたが普段生活している身の回りの環境について、現在、満足しているのはどのようなところですか。

(N=328 複数回答可 回答件数=1,192)

ごみが正しく管理・処理されている安全・安心な状況	38.4%	(126名)
身近な自然(海、山、雑木林、川、野鳥など)とふれあえること	35.7%	(117名)
太陽光や風力などの再生可能エネルギーが活用されていること	34.8%	(114名)
水が汚染されていない安全・安心な状況	32.3%	(106名)
住まいの周りの静かさや清潔さ	31.7%	(104名)
環境に負荷をかけず、安全・安心な、資源を有効活用するリサイクルが行われていること	30.8%	(101名)
空気や空が汚染されていない安全・安心な状況	23.2%	(76名)
モノや資源が大切に使われ、ごみが少なく資源の無駄遣いがないこと	21.6%	(71名)
地域(自治会やサークルなど)で環境保全・環境教育を通じた地域づくりが行われていること	21.3%	(70名)
省エネルギーの取組みが行われ、家庭や会社でエネルギーが効率よく使われていること	20.7%	(68名)
環境関連の技術や産業(※3)が向上・発展していること	20.1%	(66名)
豊かな自然の恵み、生物の多様性を活かす社会経済活動が行われていること	15.2%	(50名)
希少な動植物を守る取組みや里山保全活動などの地域の豊かな自然環境を将来に引き継いでいく取組みが活発に行われていること	11.0%	(36名)
誰もが環境の大切さを意識し、日々の生活や事業活動の中で環境に配慮した行動が実践されていること	9.1%	(30名)
環境について満足しているところはない	8.8%	(29名)
環境に配慮した農林水産業が営まれていること	7.3%	(24名)
その他	1.2%	(4名)

無回答 0% (0名)

[その他(抜粋)]

- ・ 地域の方々の清掃作業やごみ分別はきちんと行われていて街に清潔感がある。
- ・ 環境は空気と同じ感じなのであまり意識した事はない。
- ・ 企業や自治体等で地球環境保護の取組みが行われているが、本来目指すべき取組みや成果というものとは、ほど遠くまだまだかけ離れていると思う。

※3 環境関連産業とは

リサイクル関連産業だけではなく、太陽光発電等の自然エネルギー関連産業などの環境負荷の低減や環境保全につながる様々な産業のこと。

〈4〉 あなたが普段生活している身の回りの環境について、この10年間で良くなったと感じるのはどのようなところですか。

(N=328 複数回答可 回答件数=1,164)

太陽光や風力などの再生可能エネルギーが活用されていること	41.5%	(136名)
ごみが正しく管理・処理されている安全・安心な状況	36.3%	(119名)
省エネルギーの取組みが行われ、家庭や会社でエネルギーが効率よく使われていること	34.5%	(113名)
環境に負荷をかけず、安全・安心な、資源を有効活用するリサイクルが行われていること	30.2%	(99名)
住まいの周りの静かさや清潔さ	28.4%	(93名)
モノや資源が大切に使われ、ごみが少なく資源の無駄遣いがないこと	26.2%	(86名)
水が汚染されていない安全・安心な状況	24.4%	(80名)
環境関連の技術や産業が向上・発展していること	20.4%	(67名)
空気や空が汚染されていない安全・安心な状況	19.2%	(63名)
地域(自治会やサークルなど)で環境保全・環境教育を通じた地域づくりが行われていること	18.9%	(62名)
身近な自然(海、山、雑木林、川、野鳥など)とふれあえること	16.8%	(55名)
希少な動植物を守る取組みや里山保全活動などの地域の豊かな自然環境を将来に引き継いでいく取組みが活発に行われていること	14.0%	(46名)
豊かな自然の恵み、生物の多様性を活かす社会経済活動が行われていること	12.2%	(40名)
10年前とは違う地域に住んでいるのでわからない	11.0%	(36名)
誰もが環境の大切さを意識し、日々の生活や事業活動の中で環境に配慮した行動が実践されていること	8.8%	(29名)
環境について良くなったと感じるところはない	6.4%	(21名)
環境に配慮した農林水産業が営まれていること	5.2%	(17名)
その他	0.6%	(2名)

無回答 0.0% (0名)

[その他(抜粋)]

- ・ 太陽光発電や風力発電などの普及が遅いように感じる。

〈5〉 あなたが普段生活している身の回りの環境について、不安や不満と感ずるのはどのようなところですか。

(N=328 選択は4つまで 回答件数=789)

空気や空が汚染されていること	34.5%	(113名)
モノや資源が大切に使われず、ごみが多いことや資源が無駄遣いされていること	31.7%	(104名)
ごみが正しく管理・処理されていないこと	19.2%	(63名)
省エネルギーの取組みが行われず、家庭や会社でエネルギーが無駄遣いされていること	18.3%	(60名)
希少な動植物を守る取組みや里山保全活動などの地域の豊かな自然環境を将来に引き継いでいく取組みが活発に行われていないこと	16.5%	(54名)
水が汚染されていること	15.2%	(50名)
住まいの周りの静かさや清潔さが保たれていないこと	14.9%	(49名)
太陽光や風力などの再生可能エネルギーが活用されていないこと	12.5%	(41名)
環境について、不安や不満と感ずるところはない	11.9%	(39名)
豊かな自然の恵み、生物の多様性を損なう社会経済活動が行われていること	11.3%	(37名)
環境に負荷をかけず、安全・安心な、資源を有効活用するリサイクルが行われていないこと	9.8%	(32名)
身近な自然(海、山、雑木林、川、野鳥など)とふれあえないこと	9.8%	(32名)
日々の生活や事業活動の中で環境に配慮した行動が実践されていないこと	10.9%	(29名)
環境に配慮した農林水産業が営まれていないこと	7.0%	(23名)
地域(自治会やサークルなど)で環境保全・環境教育を通じた地域づくりが行われていないこと	7.0%	(23名)
環境関連の技術や産業が向上・発展していないこと	4.9%	(16名)
その他	3.7%	(12名)

無回答 0% (0名)

[その他(抜粋)]

- ・ 私の住んでいる地域は環境意識が高く、とてもきれいで住みやすい街だと思っている。
- ・ カラスによるごみの被害が目立つ。近年増えている留学生向けのアパートではごみの分別が不十分であることが多い。真冬でも飲み物を冷やす自動販売機がたくさんある。この三つについて対策が必要だと思う。
- ・ 原子力発電所がいまだに稼働していること。(3件)
- ・ 資源その他もっともっと節約・大事にする必要がある。
- ・ 段ボールや新聞紙等の収集がなく困っている。こうした資源ゴミをきちんと各市町村で回収した方がいいと思う。収集場所まで遠くてとても運べない。
- ・ 山や丘が造成され太陽光発電設備が出来ている。環境破壊も甚だしいと感じている。自然体系、動植物にとっては破壊としか言いようがない。

<6> 福岡県の環境について、これまでの設問以外の意見

<全体>

- ・具体的に何をどうするべきなのかを県民に明確に個別項目ごとに数値化して明示すべき。
- ・環境指標期間として10年は短すぎる。20~30年の長期スパンが必要。
- ・単身赴任から帰って5年、ずいぶん環境もよくなったと感じる。安全、安心の街づくりをこれからもお願いします。みんなが住みたい街に！
- ・人が穏やかに生活できる環境の保持と、快適に利便性の良い生活ができる開発の両方が調和した政策を期待している。
- ・県で音頭をとり、県民や事業所などに広報することは大事ですが、市町村や企業に物言える経済連、商工会議所などと連携が密になれば成果がでると思う。環境行政は国、県、市町村などの本気度がなければ、県民まで届きません。

<低炭素社会>

- ・太陽光発電や蓄電池等の自然エネルギーに各家庭の普及がすすむように、導入時の初期コストや電力買取りに対し、県が積極的に助成し、普及促進に努めるべき。
- ・イルミネーションは電力を無駄遣いしている。
- ・県は、山を切り崩してまで太陽パネルの設置等を行うことに疑問。
- ・太陽光パネルの設置場所が急速に増えていることが気になっている。県あるいは自治体として、設置する場所・しない場所の管理や、空き地に新規ではなく例えば何かの跡地や屋上などの有効利用を進めることができないだろうかと思う。

<循環型社会>

- ・食べ残しキャンペーンはどうかと思う。それより、もっと力入れるところがある。食べ残さなくても店は残ったら捨てるだけ。
- ・町中を外れると道路の両サイドにごみ・空き缶等々がある。
- ・コンビニとか賞味期限が近づいたらお弁当を捨てるのではなく半額にしたりすべき、ホテルの食べる時間の取り組みがあるからもっと周知すべき。
- ・民間業者の古紙リサイクル回収などはお店のポイントが付いたり利用しやすい環境が整っている。それを県の行政が積極的に取り入れて欲しい。古着の回収も市では行っているが、少しでも見返りがあれば回収に拍車がかかると思う。他にも色んなゴミを資源に変える事が出来れば、もっと豊かになるではないかと思う。
- ・使用済みのパソコンや電気製品からのレアメタルの回収、抽出技術に注力すべきだと考える。
- ・産業廃棄物の不法投棄への対応が遅いように思う。
- ・不法投棄による地域住民、河川汚濁への環境被害は大きい。業者への強制力を持った条例の制定と実行力が必要。

<自然共生社会>

- ・集中的降雨時に河川へ流出する土砂の量が多い河川がある。その降水の都度河川敷に堆砂が厚く埋積して魚類や微生物がいなくなっている。上流域での人為的土地造成や不法土砂持ち込み・放棄等が予想され、徹底的な調査と管理が望まれる。
- ・世界遺産となった「宗像・沖ノ島と関連遺産群」は環境が守られてきたからこそその遺産群だと思ふ。環境・産業等でもっと広くPRしても良いのではないかと思う。
- ・公共施設に季節を感じさせる植物を充実してほしい。特に教育施設。

<健康で快適に暮らせる生活環境>

- ・爆音を発しながら走るバイクや乗用車は騒音防止条例にも違反していると思われる。日常生活における極端な騒音は十分環境汚染だと考えます。
- ・風力発電については音による健康被害や風車の老朽化に対する対策などが不安に感じるので、推進する事に疑問を感じる。
- ・車社会の見直しをしなければ、これからの人口増が見込まれるエリアを中心に大気汚染は深刻化していくと思います。抜本的改革を試みるべき時期に福岡は差し掛かっていると考えています。
- ・生活排水でのクリーク等の汚染。
- ・下水道工事がされたが未来への美しい水辺のある暮らしが目的である、本来の目的に叶う対策が不十分で予算消化が目的に感じる。その理由は浄化槽を持っていない家庭への下水道への接続で垂れ流しを無くすことが第1と思うがその対応が不十分と思われる、目的に叶う動きになっていない様に感じる。

<地域づくり・人づくり>

- ・県民にもっとわかりやすく環境活動を啓発してほしい。机上の空論ではなく普段の生活の中でももっとみんなに周知すべき。いまのままでは実態がちっとも見えてきません。理屈ではなく具体的な行動が必要です。
- ・個人では選べる環境と、選べない環境がある。これからの子供たちに、環境の大事さを教えるのが、大人の義務。
- ・ラブアースの取組みにもっと力をいれて欲しい。広報、周知など。
- ・ごみが多いことが気になっている。分別は進んでいるが、ゴミを出さない努力と工夫、生ごみを活用できる方法が広がることも必要。
- ・外国人の居住者にも県として、地域としての環境への取り組みを理解・協力してもらう必要がある。
- ・現住所に生活し 40 年位経過するが、生活に「慣れ」が生じており環境の大きな変化には気がつかないままになっている。時にはこのような意識を持つことが大事。

<環境負荷低減技術・産業の振興>

- ・職場での紙の無駄遣いが気になる。もっと、ペーパーレスな職場であることが普通な社会づくりが必要。
- ・中国大陸からの PM2.5 や黄砂の飛来が、他県に比べ影響を受けやすい福岡なので、テレビ等で予報に応じて注意喚起するだけでなく、影響を最低限にする技術開発を切望します。

<その他>

- ・玄海原発が事故を起こしたら福岡は住めなくなる。反対の動きがなさすぎる。

〈7〉 満足・不満足に関する回答の経年変化^{注)}

・低炭素社会の構築

「再生可能エネルギーが活用されていること」は、満足度が比較的高くなっておりませんが、省エネルギーの取組みの満足度は平成 25 年度より低下しています。

・循環型社会の構築

「リサイクルが行われていること」は満足度が比較的高くなっておりませんが、「資源が無駄遣いされていること」に対する不満足度は高くなっていきます。

・自然共生社会の構築

「身近な自然と触れ合える」の項目は、満足度が比較的高くなっておりませんが、一方、豊かな自然を将来に引き継いでいくために必要な取組みや社会経済活動についての満足度は、10%台に止まっております。

・健康で快適に暮らせる生活環境の確保

「ごみが正しく管理・処理されている安全・安心な状況」の項目は、満足度が比較的高くなっています。一方、空気や空の状況については、満足度が低くなっています。

・よりよい環境を実現するための地域づくり・人づくり

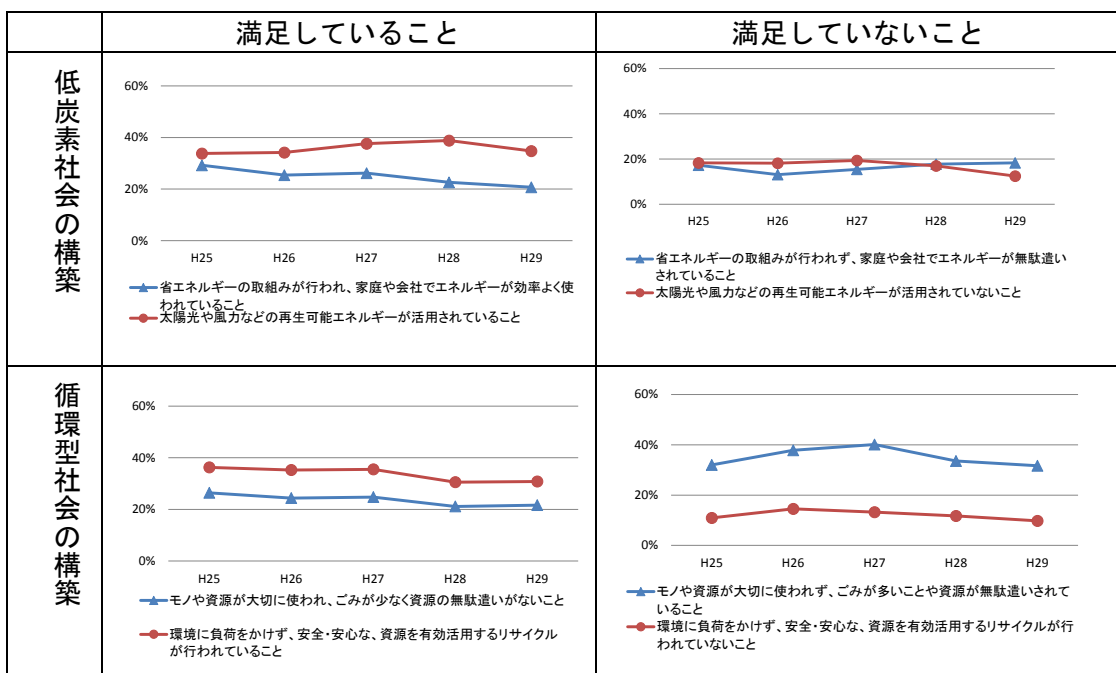
いずれの項目も、満足度及び不満足度は低い数値で推移しております。

・環境負荷を低減する技術・産業の振興

いずれの項目も、満足度及び不満足度は低い数値で推移しております。

これらの結果に関して、取組みが進んでいるにも関わらず、本調査では満足が得られていない項目があります（省エネ、リサイクルや空気や空の項目）。これらについては、正しい情報が県民に届いていない可能性があります。また、内閣府や環境省の調査で、全国的にも以前と比べ、環境に関する関心は低くなっており、今後、県民への情報提供や普及啓発に取り組んでいく必要があります。

注) 県政モニターのグラフは、平成 25 年度～29 年度の推移を表しています。なお、登録していただいているモニターは毎年度変わっています。



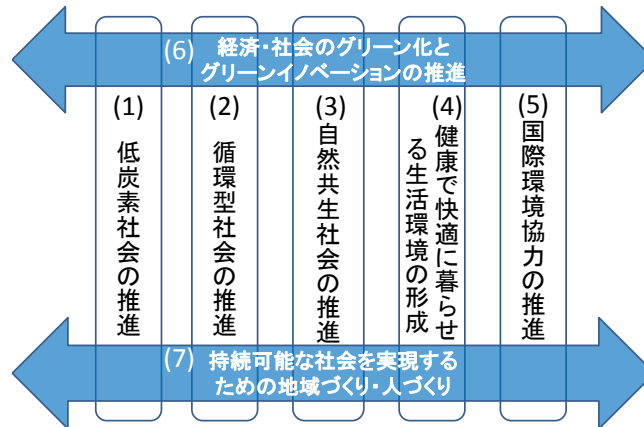
<p>自然共生社会の構築</p>	<p> ▲ 豊かな自然の恵み、生物の多様性を活かす社会経済活動が行われていること ● 希少な動植物を守る取り組みや里山保全活動などの地域の豊かな自然環境を将来に引き継いでいく取り組みが活発に行われていること ■ 身近な自然とふれあえること </p>	<p> ▲ 豊かな自然の恵み、生物の多様性を損なう社会経済活動が行われていないこと ● 希少な動植物を守る取り組みや里山保全活動などの地域の豊かな自然環境を将来に引き継いでいく取り組みが活発に行われていないこと ■ 身近な自然とふれあえないこと </p>
<p>健康で快適に暮らせる生活環境の確保</p>	<p> ▲ 空気や空が汚染されていない安全・安心な状況 ● 水が汚染されていない安全・安心な状況 ■ ごみが正しく管理・処理されている安全・安心な状況 ◇ 住まいの周りの静かさや清潔さ </p>	<p> ▲ 空気や空が汚染されていること ● 水が汚染されていること ■ ごみが正しく管理・処理されていないこと ◇ 住まいの周りの静かさや清潔さが保たれていないこと </p>
<p>よりよい環境を実現するための地域づくり・人づくり</p>	<p> ▲ 誰もが環境の大切さを意識し、日々の生活や事業活動の中で環境に配慮した行動が実践されていること ● 地域で環境保全・環境教育を通じた地域づくりが行われていること </p>	<p> ▲ 日々の生活や事業活動の中で環境に配慮した行動が実践されていないこと ● 地域で環境保全・環境教育を通じた地域づくりが行われていないこと </p>
<p>環境・産業の振興</p>	<p> ▲ 環境関連の技術や産業が向上・発展していること ● 環境に配慮した農林水産業が営まれていること </p>	<p> ▲ 環境関連の技術や産業が向上・発展していないこと ● 環境に配慮した農林水産業が営まれていないこと </p>

「福岡県環境総合ビジョン（第四次福岡県環境総合基本計画）」
（計画期間：平成30年度～34年度）

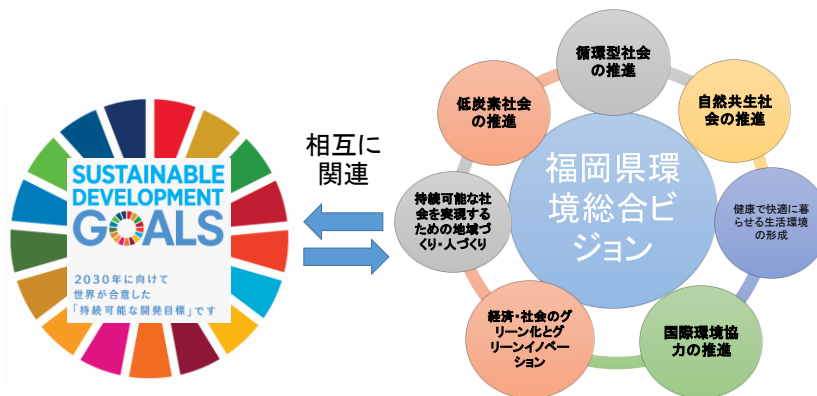
『豊かな環境が支える県民幸福度日本一の福岡県』
～経済成長と環境保全が両立した持続可能な社会へ～

福岡県は平成30年3月に新たな環境総合ビジョンの策定を行います。その環境総合ビジョンでは、7つの柱を設定し、柱ごとに目指す姿を示しています。なお、7つの柱は相互に関連しており、全体として持続可能な社会を目指すものです。

7つの柱のイメージ



また、環境総合ビジョンは、環境・経済・社会の3つの側面を調和させつつ、世界を持続的な発展に導くための開発目標であるSDGsの考え方を活用し、分野横断的に課題に取り組むことにより、経済成長と環境保全が両立した持続可能な社会の構築を目指します。



（問い合わせ）環境部 環境政策課
TEL：092-643-3355
E-Mail：kansei@pref.fukuoka.lg.jp